

Reference 10 : JP Utility Model Publication (Kokai) No. 57-035279 U (1982)

Application number: S55-110239

Date of filing: August 5, 1980

Date of publication of application : February 24, 1982

Applicant : EISAI CO LTD

Inventor : SATOSHI NAKAJIMA

Title: TWO-LIQUID STORAGE CONTAINER

Summery:

A two-liquid storage container provides two storage chambers 1, 2 which are jointed by a joint member 5.

PA 03-579
reference 10



(4,000H)

実用新案登録願



昭和55年 8月 5日

特許庁長官 川 原 能 雄 殿

1. 考 案 の 名 称

三液収納容器

2. 考 案 者

住 所 愛知県一宮市丹羽字井端 1262番地35号

氏 名 中 富 三 十 四

(ほか 0 名)

3. 実用新案登録出願人

郵便番号 112

住 所 東京都文京区小石川 4丁目 6番10号

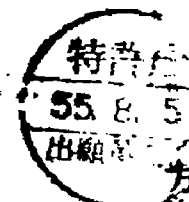
名 称 (021) エーザイ 株式会社

代表者 ナイ トウ エウ シ
内 藤 祐 次

4. 添付書類の目録

- | | | | |
|-----|------|---|---|
| (1) | 明細書 | 1 | 通 |
| (2) | 図面 | 1 | 通 |
| (3) | 願書副本 | 1 | 通 |
| (4) | 譲渡証書 | 1 | 通 |

55 110239/
35279



方式
審査

(出願)

1. 考案の名称

二液収納容器

2. 実用新案登録請求の範囲

両端に口頸部を有する筒体の中央部の内壁を接合して、二手に仕切り、該接合部を折返し点にし、屈曲させて両口頸部を同位置に並列させ、該両口頸部には注出口を有する内腔を共有して該着させ、かつその上から密封蓋を被施してなる二液収納容器。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、二液を前もって混合させておくと、変化したり又効力が低下したり消失してしまうような場合に、二液を別々に収納させておき、使用時に二液が混合してとり出せるようにした二液収納容器に関するものである。

△ヨネーヌやポリエチレンなどの食品、シヤソ

プー、リンス、毛染料、練はみがきなどや化粧品、あるいは、香料や塗料などには別々に収納された二種の液剤を使用直前に混合させて用いられるものが多いが、これらは大抵全く別個の容器にそれぞれ収納され、使用する時に他の容器あるいはどちらかの容器に移し変えるもので、いずれも容器の数が増えて煩雑になり手間がかかるものであった。

本考案は、これらの欠点を改善し、1つの容器で個別にそれぞれ収納しながら、使用時には混合あるいは同時注出することが出来、取扱いが容易でかつ製造が簡単で安価な二液収納容器を提供するものである。

すなわち本考案は、両端に口頸部を有する筒体の中央部の内壁を接合して二手に仕切り、該接合部を折返し点にして屈曲させて両口頸部を同位置に並列させ、該両口頸部には注出口を有する内栓を共有して嵌着させ、かつその上から密封蓋を被施してなる二液収納容器に関する。

以下本考案を図面に示す実施例に基づいて説明

する。

(1)および(2)は、それぞれの底部(3)(4)の一端あるいは延長である接合部(5)で連結する収納室であって、それぞれ口頸部(6)(7)を有する。

(1)および(2)は、(5)を折り返し点として互いにその背壁(8)(9)を背合せに重ねて、口頸部(6)と(7)は同位置に並んで隣接する。

(10)は内栓であって、口頸部(6)と(7)の両方を共有して嵌着し、(6)と(7)を合体する。内栓(10)の天井面(11)にはその中央に背壁(8)と(9)の幅より大きな直径を有する注出口(12)を形成し、(1)(2)双方の収納室からの内溶液の流出ができるようにする。

両口頸部(6),(7)には螺状リブなどの嵌着手段を設け、内栓(10)およびその注出口(12)と嵌合する密封蓋(13)を嵌着する。

本考案の収納室(1),(2)を製造するには、第2図に示すように両端に口頸部(6)(7)を形成した筒体の中央部の内壁を接合して、二手に仕切り、この接合部(5)を折り返し点にして屈曲させ、背壁(8)(9)を背あわせに嵌着させて、両口頸部を並列位させるも

1 字加
2 字加

のである。

次いで両口頸部に嵌着する内栓(4)で、収納室(1)と(2)が離れず一体となるように係止するのであるが、第4図、第5図に示す実施例の如く、背壁(8)(9)にそれぞれ形成した凸部(4)凹部(5)等の係止手段を設けて、背壁同志を^嵌接合するようにすれば、より安定する。

また、背壁を口頸部の周壁より突出させる時、それに従い内栓を第1図に示す実施例のように円錐台状に形成しても、あるいは第4図に示す実施例のように背壁を口頸部周壁と同位置の高さにしてもよく、すなわち内栓は、背壁の高さに適合する天井面(4)を有し、かつ両口頸部に共有して嵌着されるものであればよく、実施例にかぎられるものではない。

本考案の収納室(1)(2)を形成する筒体は、軟質、硬質の合成樹脂、合成樹脂シートにアルミニウムをコートしたフィルムあるいはアルミなどの金属箔などより製造されるもので、実施例のように背壁面を平板にし、他壁面を組合せた時に円柱ある

いは角柱状になるように円筒や角筒の半身形状に
あらかじめ成型するか、あるいはチューブ体にし
たものを折り合せて組立てることができる。

以上の如く、本考案は、二種の液体又はクリー
ム様状のものを、単一の容器において完全に分離
して保存収納しつつ、使用時には容器をさかさま
にするか、又は押し出すことによって両物質を同
時に注出し、混ぜたものが容易に使用できる構成
至簡な二液収納容器を提供するものである。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示すもので、第1図は
全体の縦断面図、第2図は収納室(1)(2)の組立て前
の状態を示す縦断面図、第3図は分解斜視図、第
4図は他の実施例を示す全体縦断面図、第5図は
第4図に示す実施例における収納室(1)(2)の組立て
前の状態を示す縦断面図である。

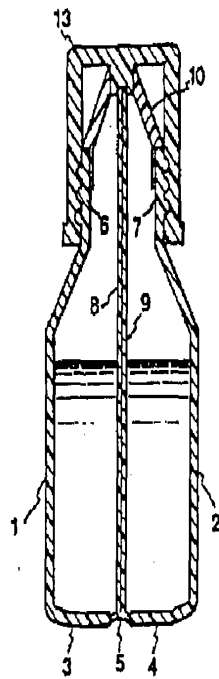
- | | |
|------|-----|
| 1, 2 | 収納室 |
| 3, 4 | 底部 |
| 5 | 接合部 |

- 6, 7 口頸部
8, 9 背壁
10 内栓
11 天井面
12 注出口
13 密封蓋
14, 15 凸部, 凹部

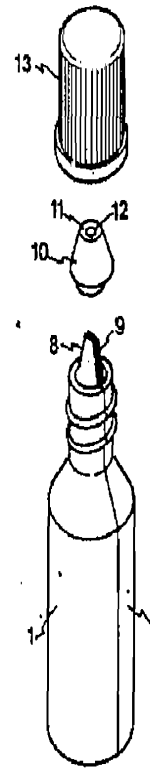
実用新案登録出願人

エーザイ株式会社

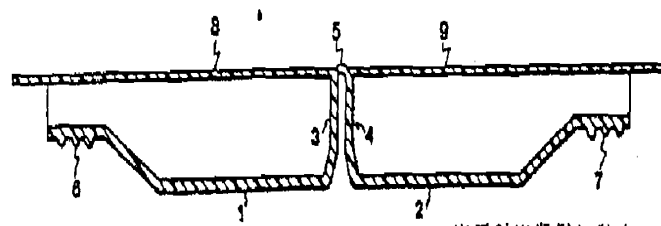
第 1 図



第 2 図



第 3 図



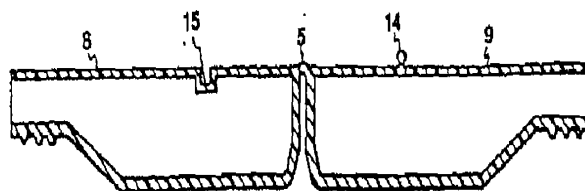
35279 1/2

実用新案登録出願人
エーザイ株式会社

第 4 図



第 5 図



35278 2/2

実用新案登録出願人
エーザイ株式会社